

防衛大学校本科第34期学生及び理工学研究科第27期学生 卒業式における学校長式辞（平成2年3月18日）

防衛大学校本科第34期及び理工学研究科第27期の学生諸君は、本日をもって所定の全課程を終了し、4年ないし2年の小原台生活に別れを告げることになりました。ここに卒業生諸君全員に対し、心からお祝いを申し上げます。

本日、この栄えある式典に、國務御多端の折にもかかわらず御臨席を賜りました海部内閣総理大臣^{注(1)}、櫻内衆議院議長^{注(2)}、石川防衛庁長官^{注(3)}をはじめ国会議員の諸先生ほか、内外多数の来賓各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

また、卒業に至るまでの間、防衛庁自衛隊の関係者各位、官民の諸機関並びに在日米軍、各国大使館等から寄せられた御指導、御協力に対しましても、併せて、厚く御礼申し上げます。また、本校において教育訓練に、生活指導に、各般の校務に日夜を分かたず尽力してこられた教職員・指導官各位の熱意に対しましても、学校長として深甚なる感謝と敬意を表するものであります。

更にはまた、遠路をも顧みず本式典に御参列賜りました御父兄の皆様方に対しましては、今日までの御援助に深く感謝申し上げますとともに、御子弟の成業を心からお祝いするものであります。

430名の本科卒業生諸君、顧みれば昭和61年の春4月、希望と不安との交錯する中、緊張感に胸を震わせながら、ここ小原台の門をくぐられたことと思います。また将来幹部自衛官として、その生涯を防衛の職務に捧げようという決意も、必ずしも強いものではなかったかも知れ



第5代学校長 夏目 晴雄

注(1) 海部俊樹

注(2) 櫻内義雄

注(3) 石川要三

ません。

それからの4年間、厳しい団体生活の中で勉学や訓練に励み、幾多の苦しいハードルを越え、試練に耐え、一回りも二回りも大きく逞しく成長いたしました。そして、幹部自衛官となるべき決意も揺るぎないものとなりました。今や胸を張って堂々と卒業して行く資格は、諸君のものであります。

タイ王国4名、シンガポール共和国2名の留学生諸君に対しましても、心から祝福を贈るものであります。

さて諸君は、これから陸・海・空それぞれの幹部候補生学校において、初級幹部としての専門教育を受けるわけではありますが、諸君の幹部自衛官としての修業は、正にこれからが本番であります。

国家防衛の任はあくまで重く、その道は遥かに遠いのであります。プロフェッショナルとしての自衛官の道は、決して平坦なものではなく、バラ色でもありません。また防衛の職務は、名声や喝采とはおよそ無縁のものだと覚悟しなければなりません。防衛問題や自衛隊に対する世間の理解や認識も決して十分とは言えません。しかし、逆風に立ち向かい、困難に敢然と挑戦してこそ道は開かれ、苦しみに耐えてこそ、人間に幅と深さが加わるものであります。

他の人の嫌がるところへ行け 他の人の嫌がることをなせ

これは、米国の女流教育家メリー・ライオンが教え子たちに残した言葉であります。彼女は、女子高等教育の進展に寄与した功績とともに、その義侠心にみちた性格と、生涯を通じて日本の武士道精神にも似た孤高の志を持ちつづけた女性として知られております。彼女は、直面する数々の不都合をはねのけ、いわれなき非難、妨害に打ち勝つことによって、少数の正義をつらぬき通しました。いつの世にあっても、正義のために立つ者は少数であります。しかしたとえ少数であれ、正義の側に立って正義を主張し、正義のために戦うことこそ、勇敢にして高尚な武人の道にほかなりません。

諸君は、小原台での4年間、幾多の貴重な体験と実践を積み重ねてまいりました。伸展性のある資質も身につけた筈であります。自信を持ち、まっすぐ前を見据えて、幹部自衛官としての道を邁進して貰いたいと思います。

また私は、かねがね「優れた士官」であるためには、まず「真の紳士」でなければならないと説いてまいりました。このことは、自衛官としての透徹した使命観を自覚し、防衛の専門家としての知識技能を修得すべ

きはもちろん、一人の人間として、幅広い教養と豊かな人間性を併せ持つべきことを意味します。

防衛大学校の教育は、視野の狭い、特殊な戦争技術者の養成を意図したものではなく、国家社会の一員として、その職責を尽し得る資質の涵養を目的としていることは論をまちません。

特に、諸君が巣立ち行く社会は、あらゆる意味で複雑化、多様化の方向へ進み、内外の情勢はますます不透明、不確実の度を深めることが予想されます。そこでは、いかなる職業を選ぶにせよ、広い角度と高い視点に立った複眼的思考力と正しい価値観が求められることとなります。諸君に対し、自衛官としてのたゆみのない研鑽に加え、偏することなき「人間としての修業」を怠らぬよう望む所以であります。

次に、理工学研究科59名の卒業生諸君に対し、一言申し述べます。最近の科学技術の著しい進歩に伴う装備の高性能化、複雑化などの質的变化は、軍事戦略及び戦術に大きな変革をもたらしております。諸君は、理工学に関する大学院レベルの専門的知識・技能を修得すべく2年の歳月を本校で過ごされ、頭脳の充電を図り、将来への飛躍と大成のポテンシャルを培う貴重な研究体験を積まれたのであります。

今後、諸君は、それぞれ新たな任務に就かれるわけではありますが、更に研鑽に努められ、ますます重要となりつつある自衛隊の科学技術分野の発展向上に尽力されんよう切望してやみません。

小原台生活の幕は、いま正に閉じようとしております。これから先、同期生同士、その融和と団結を更に強め、いかなる部署、いかなる境涯にあっても、防大出身者としての誇りを持って、お互いに手を取り合い、助け合いつつ、祖国日本の輝かしい将来のために挺身して行かれんことを、お別れに当たり心から祈念しつつ、ここに式辞を終わるものであります。